

平成30年12月吉日

学 校 通 信
学力特集号

たかす

北九州市立高須小学校
〒808-0144 若松区高須東四丁目14-1
Tel 093-741-4646
校長 小田 容敬

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

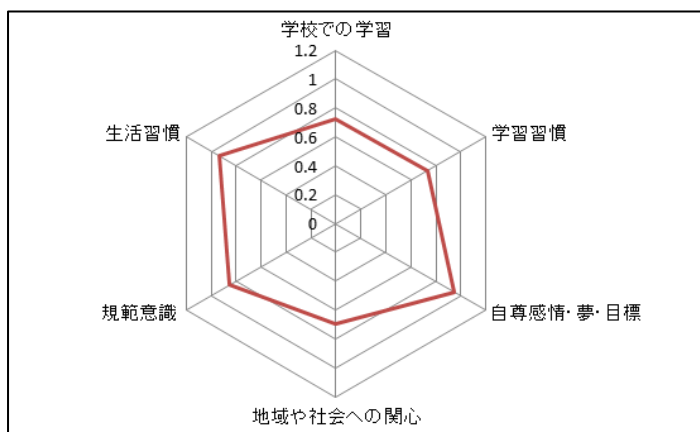
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

学力調査はそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つだと考えます。本校では調査結果も踏まえ、今後も学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	平均正答率は全国より下回っているが、無回答率は全国より低く、問題に向き合う姿勢が見られた。情景描写を基に人物の心情をとらえる力を高めていく必要がある。	下回っている
国語B	平均正答率は全国より下回っていて、その差は国語Aよりも大きい。無回答率が高く、特に記述問題でその傾向が強い。	下回っている
算数A	平均正答率は全国より下回っているが、無回答率は全国より低かった。数と計算領域の正答率が特に低く、2つの数量の関係をとらえることができていない。	下回っている
算数B	平均正答率は全国より下回っているが、その差は算数Aよりも小さい。記述式の問題において無回答率が高く、考えの理由を記述する問題では約4分の1の児童が無回答であった。	下回っている
理 科	平均正答率は全国を下回っており、特に「B 生命」の区分で課題が大きい。実験を通して導き出す結論を書く問題では、約5分の1の児童が無回答であった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・将来の夢や目標をもっている児童や、人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合が比較的高い。道徳科や子どもつながりプログラムを通して、児童の自尊感情がより一層高まるような取組を継続していく。
- ・学校の宿題をしている児童は98.6%いるが、自分で計画を立てて勉強をしている児童がとても少ない。自主的に学習する態度を育てていく必要がある。
- ・朝食摂取率が全国より10ポイント以上低い。食育の取組をさらに進め、心身ともに健康な児童の育成に努める。自主的に学習する態度の育成とあわせ、家庭との連携を図る。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・各教科において、「めあて」「まとめ」「振り返り」を設定した授業を確実に実施する。
- ・1時間の授業の中で「話し合う活動」を計画的に設定し、児童が考えを深めたり広げたりすることができるようにする。
- ・学力定着サポートシステムを活用し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、診断問題を通して児童の実態を把握する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭と協力して児童が自主的に学習する態度を育成する。
- ・「高須小よいこのきまり」を配布し、家庭と連携して児童の規範意識を高めるよう努める。
- ・食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身に付けさせていく。